

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100077		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい静浦		
所在地	静岡県 沼津市 獅子浜111-1		
自己評価作成日	令和元年 10月 2日	評価結果市町村受理日	令和元年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和元年 11月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH静浦の運営理念は「みんな、笑顔でいつもの暮らし」です。私たちは運営理念を実現するため、日常生活と個別ケアへの支援を強く意識しています。毎年事業所での方針目標を掲げ、入居者様中心の生活・ケアを展開していくにあたり、本年度目標を「無・減・代」と定めて「業務の定量化・見える化」を進めています。入居者様と一緒に過ごす時間(ケアへの還元)にスタッフ共通認識のもとで取り組み、普段あまり意識しない「時間」にフォーカスを当て、私たちが工夫することで入居者様に対して、望まれる事や「その時」に求めていることに耳を傾け、寄り添える環境作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、富士山を望む閑静な海岸にあり、広い敷地には庭土で造られた築山や菜園・老人憩いの場がある。行政や地域住民とのより良い環境の中で、利用者が安穩な日々を過ごす事ができるように努めている。法人共通の理念である「敬愛・創造・貢献」を受け、事業所独自の理念に加え、各フロア毎に毎月の目標を定めて運営している。管理者は、サービス向上を目指して、事業所の課題を数値化・可視化する等、業務改善に関する提案を積極的に行っている。また、利用者や家族と良好な関係が築かれている。その結果、家族アンケートでは高い回収率と感謝の気持ちが寄せられている。地域の一員として、防災訓練や行事で交流を図り、良好な関係が作られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は事業所内に掲示し、毎日唱和を行っています。毎年理念から年間の方針目標を設定し、staffみなで取り組む体制を整えています。GH 静浦は笑顔の絶えない事業所だと思います。	事業所の運営理念は、玄関・共有スペース・事務所に掲示されている。運営理念を基に、事業所方針目標を立案している。今年度は「無・減・代」を掲げ、毎月の全体会議で目標の取り組み内容・評価を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小中一貫校や保育園との交流があります。地域での防災訓練にも毎回参加しています。台風前など災害の危険が予想される時には民生委員さんが事業所を訪問し気にかけて下さいます。散歩の時には気軽に声を掛けて下さいます。	事業所の行事(運動会等)に、地域の保育園を招待し、交流を持つ機会を年4回以上設けている。また、小中一貫校の生徒の訪問も継続して行われている。事業所は、開所当初から地域の活動に参加し、住民との関係を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の福祉講演会に参加させて頂き、事業所の紹介や取り組みなどを地域の方にお話しさせて頂いた。毎年開催予定なので今後も継続して参加していく予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回(偶数月)運営推進会議を開催しています。運営推進会議で配布させて頂く資料について、毎月発送させて頂くお便りに同封させて頂いて日頃の入居者様のご様子等と居一緒に共有を図っている。入居者様にも会議に参加していただいております。	運営推進会議は、2か月に1回行い事業報告を行っている。多くの人に会議に参加してもらえよう、土曜日開催や行事と合わせて行う等、工夫している。しかし、出席者の増加は難しく、意見が少ないことも課題と考えている。	運営指針会議の意義や目的を関係者と共有し、事業所のサービス向上に向けて、継続した取り組みを期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて密接に連携をとっています。被保護者の入居者様が5名と多く、行政の社会福祉課担当者様には連携を含めてとてもお世話になっている。	市の担当者とは、入居者に関する報告・相談を行い、連携を図っている。運営推進会議に担当者の出席はないが、地域の連絡協議会には2か月に1回参加している為、意見交換する機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束ゼロと現状の振り返りを行っています。管理者が9月より身体拘束廃止推進員の研修に参加しています。	玄関の施錠は、防犯の観点から24時間行っている。身体拘束委員会を3か月に1回開催している。委員会では、アンケートを実施し、職員の理解度を図るとともに、事業所課題の抽出を行っている。課題を基に行動目標を立案しており、研修を毎年開催して職員教育を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての社内研修を毎年1回、事業所内研修を毎年2回開催しています。身体拘束廃止委員会ともリンクさせ自己チェックシートを使い、日頃のケアで不適切なケアではないか？を振り返っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご本人様の自己決定を尊重した「自律」を意識しています。昨年度外部研修にて参加した資料を毎年実施していく予定ではある。ケースが現在ないので事象発生時に迅速に繋げられるよう知識は継続して習得していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や各種同意の際には、十分な時間を設け細部までご説明させて頂きます。各種項目終了段階で不明点の確認をとらせて頂くとともに、説明だけでなく会話も交えながらも意識しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しています。またご要望や軽度なクレームを聴き取り改善提案報告書を用いて随時ご提案・ご対応・謝罪を行うことで大きなクレームとならないよう発生事案については迅速に対応しています。	運営推進会議と行事を共に行うことで、意見の出しやすい環境を作っている。利用者から出た意見等は、改善提案報告書にまとめられ、サービスに反映している。家族の面会時には、積極的に意見交換を行っており、苦情に至るケースはない。遠方に住む家族には、電話やホーム便りで近況報告を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月27日前後に全体会議を開催し、事業所の方針やグループの方針・引継ぎ事項を共有し、消化しきれない点については意見交換・質問の時間をとっている。	全体会議で出された課題や意見は、本部のエリア会議等で審議される等、グループ全体に職員の意見を反映させる仕組みがある。また、半期毎に職員面談を行っており、個別に意見を聞く機会を設けている。キャリアパス制度を導入しており、人事考課を毎年行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスによる人事考課を毎年実施。事業所内で方針目標に則した個人目標を立てて頂き定期的に面談・フィードバックを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・外部研修共に積極的に参加をし、参加者が事業所に勉強会という形で共有をしています。新入社員には新人研修へOJTを実施。法人内で基礎介護研修を毎年必ず1回参加するようにし介護の知識から接遇までを学んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ内での施設行事には積極的に協力させて頂き、交流を持っている。またグループホーム連絡協議会を通じて、同業他社様との意見交換・交流を2か月に1回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時の事前情報から、事前面談を通して、今現在の生活や日常生活での困りごとの情報収集を行うとともに、ご本人様の「今を知る」事を大切にしている。真摯に向き合うことで信頼関係は構築されるものと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時での説明だけではなく、何気ない会話を通じて、良い意味でのオープンな関係、なんでも言える環境を意識しています。入居に至るまでの葛藤なども配慮しお話しをさせていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に医療ニーズや精神症状の増悪や、他の入居者様との関係性・集団生活に適應できないと判断された場合には契約書にもあるとおり、お受入れが難しい事をお伝えしている。現状に則したサービスを専門職の立場からアドバイスさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に過ごす」を意識しています。身体的介助なども勿論大切ですが、ぐるーびホームではご本人様の生活がメインであることを念頭に置いた1日を送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事やイベントの際には、毎回お知らせを行い、毎月事業所独自のオリジナル情報誌「潮風便り」をスタッフが作成し、お便りに同封し日頃のご様子などをお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様より情報を頂き、関係性が明確になっている方についてはスタッフ間面会簿を通じて共有し、ご来訪時にはお繋ぎ、一緒に時間を過ごしていただいている。ご要望があれば、ドライブレクにて馴染みのある場所にお連れすることもあります。	事業所のある地域で生まれ育った入居者も多く、近隣の友人が面会に来ることもある。近所の店舗や病院などで会うこともあり、日頃から馴染みの関係が継続されている。また、遠足では以前勤めていた場所や思い出の場所に個別外出する機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても好き嫌いはあるのですが上手いかではなく、関係性の悪化やトラブルなど事前に察知してスタッフが介入していく事を意識している。入居者間で		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居事例が少ないので、退去先への情報提供と、退去後も精算等にてご連絡頂く事もあるので、真摯に対応させて頂いています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	改善提案報告書を活用し、ご要望に対して時間を捻出し可能な限り迅速にご要望に沿う形でケアに反映させています。	介護計画書の更新に合わせて、再アセスメントを行い、ケアチェック要約表を作成している。しかし、要約表には現在のサービス実施状況は示されているが、課題の抽出に繋がる情報が不足している。	介護計画書の課題を抽出する上で、情報を整理し、共有することはチームケアの統一を図ることに繋がる。アセスメント方法等の見直しを図り、改善される事を期待する。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報は参考にさせていただきますが、入居後のご本人様・御家族様などより日々のコミュニケーションを通じて生活歴や趣味趣向など伺うよう努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援の観点からも、生活上の役割として、個々の特性や能力に応じて日常生活の一部を担って頂けるよう支援しています。また「スタッフと協力して出来る事」も意識して取り組んでいます。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスをフロア会議にて行い、モニタリング含めた意見交換を行いその人にあった、その人らしい計画書の作成に努めています。	関係職員とフロア会議内で、目標期間毎にモニタリングを行っている。しかし、モニタリング内容は、実施状況や達成度・ケアの継続の有無にとどまっており、具体的な情報の確認ができなかった。	関係職員と話し合い、ケアの検討がされているが、判断となった情報が記録されていない為、改善される事を期待する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化を記録に残し誰が見ても分かる表記を意識して取り組んでいる。気づきシートを活用した情報共有と、PDCAも行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的ニーズ発生の折には、関係医療機関と密に連携し、転居先なども提案させて頂く。たとえ困難だとしても代替案を捻出・提案させて頂き、柔軟な対応に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園・小中一貫校との交流もあり、地域イベント・行事などへの社会参加も、ご本人の意向を確認しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関とは事象発生時にはリアルタイムで情報共有をさせて頂いている。連携医療機関以外の病院受診も有料送迎の形でご家族様のご都合がつかない場合には受診の支援を行っている。入院先との連携は地域連携室・病棟を通じて必要に応じ随時情報収集・共有を行っている。	入所時の希望により、医療機関を決める事が出来る。協力医療機関とは、毎月2回往診があるほか、緊急時には24時間体制、ターミナル対応をする仕組みが整えられている。その為、入所時に連携医療機関へ変更される割合が高い。その他の医療機関への受診対応は、有料送迎サービスとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回巡回の看護師が訪問し健康状態の把握や医療的処置を行っている。月2回 連携医療機関の訪問診療もあり、特記対応すべきケースには看護師が訪問して下さり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関(病院)には毎月情報誌をも持参しご挨拶させて頂き顔の見える関係作りに努めています。入院ケースにおいては地域連携室と進捗の確認を行い、退院日程の調整なども行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における指針・看取りの指針についても契約書に明記し、説明と同意を頂いている。事象発生時には関係職種チームとしてカンファレンスを実施し、施設対応可否の判断から、養療上の注意点や発生しうるリスクに関しても情報共有を行っている。	「オンコール対応手順」に沿った役割が明確化されている。対応についての意思確認は入所時説明行い、ターミナル期等に再度家族・関係者を集めカンファレンスを開催し方向性を確認している。内部研修を通じて、看取りケアに関して学ぶ機会もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携医療機関とのオンコール体制にていつでも指示・助言頂ける環境を整えている。応急救護についてAED使用法や研修会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災想定防災訓練・年1回の風水害訓練を実施。地域防災にも毎回参加している。又新人スタッフへの防災教育と、既存スタッフを対象の防災教育を継続的に実施している。法人内で災害アプリを活用したBCP訓練も行っている。	立地状況から津波や土砂崩れ等のリスクが高い状況みられる。地震、風水害を想定した訓練を地域と共に行っている。近くに避難場所はあるが、利用者の避難には難題がある。備蓄や災害備品を整備し、災害マップの掲示が確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した言葉かけを意識している。トイレのノック・居室へ入る際のノックなど、生活空間にお邪魔させて頂く側の意識もわせれないよう、対応させていただいております。	入居者視点に立った対応を心がける為、バイステックの7原則等を基に自尊心に配慮した教育を行っている。スピーチロック等の定義等を現場職員と確認・共有・実施する取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望・ご要望については、日常の会話より抽出したものを改善提案報告書として視覚化し迅速に対応している。自己決定については判断(決める)をご本人様に行っていただけるよう言葉かけに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位・入居者様の視点になって考えることを基本とし支援しています。起床・入床の時間から、歩行のペースにおいても目安となるタイムスケジュールは存在するが、意向に合わせ柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意向にて、化粧をするなどご要望に沿った支援をさせて頂いています。着用する衣類もご本人に決めて頂き自己決定を尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご要望として上がるメニューに関しては改善提案報告書として迅速に反映しています。入居者様にも一緒に食事作りを手伝って頂く等で食事作りの工程を楽しんで頂いています。	湯煎等での食事がメインとなるが、おでんや鍋等のユニット別に利用者の希望を叶える仕組みがある。利用者の自立支援や役割を尊重し、一緒に食事準備等を行う様子が確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて食事量・水分摂取量の把握を行っています。水分などは様々な飲み物を用意しご要望に沿ったものを提供、湯煎食材導入にて栄養バランスも整ってきている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯においてはスタッフ管理ですが、清掃などはご本人様に行って頂く。ブラッシングにおいてはお任せしているが、歯間ブラシを使用した口腔ケアではスタッフがお手伝いさせていただくケースもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	最低限のお手伝い・支援にて対応させて頂く。時間はある程度決めているが、その日より柔軟に対応させて頂き、行きたいときに行ける環境に努めています。	夜間オムツ利用は、現在4名である。チェック表を利用して、排便間隔や排泄のタイミングを確認し、個々の生活ペースに合わせた介助を行っている。また、排泄用品にかかる経済面や本人の意見を考慮し、一元的にオムツ外し等は行わない方針で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルトなど近所の牛乳店より購入し提供させて頂いています。食事や湯煎含めた食物繊維のバランスも考慮し提供している。便秘のパターンを把握し、ご本人様に負担が少なく、ご自身で完結できる排泄ができるよう主治医とも相談させて頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴にてご本人様が満足するまで入浴して頂き週2回を基準に入浴を行って頂いている。汗をかいたり、汚染してしまった等のケースにおいては回数関係なく入浴して頂いております。浴槽につかるのが困難なケースについてはシャワーチェアにてシャワー浴を行って頂いております。	午前中週に2～3回の入浴を基本としている。しかし、庭作業後などの状況や利用者の希望に合わせ適宜回数や時間に関わらず、柔軟に対応している。入浴拒否等がある場合には、無理なく清潔保持ができるよう、本人の希望を尊重した調整等含め工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は出来る限り音が出ないように努めている。照明に関しても常夜灯をつけ最低限の明かりとしている。日中の体力的に疲れている様子が伺えたら言葉をかけさせて頂き、ご要望があれば自室にて休んで頂くよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情(処方箋)の管理と共有を行い、服薬チェック表に関しても法人内ルールにて服薬事故のないよう努めている。薬剤師との情報交換・指導、助言の随時頂ける関係性も構築できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時の気分により様々なものを提供させて頂いております。ご本人様よりお聞きした情報を元にレクリエーションに反映させたり、役割としてお願い頂くよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	海・山が近いので散歩などは頻繁に行っています。ドライブレクなども時間を見つけて千本・香貫山など思い出がある所にお連れすることがあります。食材の買い出しも手伝って頂いております。	利用者の状態や希望に応じて、外出頻度は異なるが、平均月1回程度は外出機会を設けている。外出希望のある利用者は、買い物や近くの公園への散歩など、外出機会を日常的に設けている。今月は、個別企画で利用者希望の場所へ3時間程度の外出を行っている。また、庭や畑を活用し、外気浴を行うなどの工夫が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については、基本御家族様管理とさせて頂いております。ご要望に際しては立替購入として月末に精算し、翌月にご請求をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様よりご依頼があればその都度対応させて頂いておりますが、夜間などスタッフの人員が少ない状況では翌日をお願いするなどのケースも御座います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月壁に飾りつけを行い季節を感じて頂ける様に努めています。飾るものは入居者様に作成していただいたもので、思い入れももって頂けるよう配慮しています。室内温度は外気温より判断して温度設定を行い、照明なども日光の入りにより調整しています。	共用空間は、常時適温に保つことや採光に注意が払われている。庭に面したウッドデッキでは、畑を見る事が出来、河津桜、BBQや流し素麺等季節ごとの行事に有効活用されている。災害対応自販機の脇には座る場所等もあり、近隣の方との交流できるスペースを確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは3つのテーブルを配置しソファも各階2ヶ設置しています。ソファで談笑する時もあります。一人になられたい時の空間としてソファを活用しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境についてはご本人様のご意向に可能な限り沿う形で提供させて頂いております。車椅子でも移動スペースを確保した配置に努めている。思い入れのある家具や仏壇までお持ちいただく事もあります。	スペース・導線確保を前提に安全を確保し、それ以外に関しては、本人の希望に合わせ、馴染みの物を持参してもらう対応を行っている。鏡台やミシン等使い慣れた物や、枕や会話のできる玩具等の思い入れのある品々を居室に持ち寄り、自宅の延長を意識した対応を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設環境についてはバリアフリーを含め、生活動線での障害などを出来る限り生活のしにくさを排除しています。		